

氏名	三河内 弘
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第 892 号
学位授与の日付	昭和 52 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	Neocarzinostatin の宿主免疫能への影響に関する 基礎的研究 第 1 編 体液性免疫能への影響に関する検討 第 2 編 細胞性免疫能への影響に関する検討
論文審査委員	教授 大藤 眞 教授 長島秀夫 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

新抗白血病剤 Neocarzinostatin (NCS) の宿主免疫能への影響を知る事を目的とし、本剤の体液性並びに細胞性免疫能への影響について検討をこころみた。

第 1 編 C₅₇BL マウスを用い、血清蛋白像、脾ブランク形成細胞 (HPFC) 産生能への影響を検討した結果 NCS 1.0 mg/kg i.p. 1 回投与群で投与後 4 日目でのアルブミン、 γ -グロブリンの減少、8 日目での γ -グロブリンの減少が認められ、 γ -グロブリンの減少は投与量、投与日数と関係する事が示された。又 HPFC は NCS を +8 Day, -4 Day に投与した際最も強く抑制され、本剤の免疫抑制時点は主に免疫応答過程の準備段階にある事が示された。

第 2 編 C₅₇BL, BALB/c 系マウスを用い末梢リンパ球数、脾重量、総脾細胞数、脾組織像、脾細胞 in vitro PHA 反応及び塩化ピクリル遅延型皮膚反応への影響を検討した。その結果 NCS 1.0 mg/kg i.p. 1 回投与群では投与後 4 日、8 日目で末梢リンパ球数、脾重量、総脾細胞数、脾の組織学的変化 (赤色髄、白色髄における細胞密度の減少) を認めた。又脾細胞 in vitro PHA 反応、塩化ピクリル遅延型皮膚反応も NCS 投与により抑制される事が示された。

以上 NCS は宿主免疫能に対し抑制的に作用し、その抑制点は主に抗原刺激前であるものと思われたが、今後本剤の臨床応用に際してはこの点を考慮した上での至適投与法が検討されるべきと思われる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は Neocarzinostatin の宿主免疫能への影響について実験的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった本剤の体液性免疫ならびに細胞性免疫への影響について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。